

2026年5月18日

各 位

会 社 名 ラクオリア創薬株式会社
代 表 者 名 代表取締役 須藤 正樹
(コード番号：4579)
問 合 せ 先 執行役員経営管理部門担当 志水 幹憲
(TEL. 052-446-6100)

(訂正) 2026年12月期 (第18期) 第1四半期 決算説明会資料

2026年5月15日付「2026年12月期 (第18期) 第1四半期 決算説明会資料」にて公表しました内容について、誤記がありましたので訂正のうえ、下記のとおりお知らせいたします。なお、訂正箇所には下線を付しております。

記

【訂正前】

表紙

2026年12月期 (第18期) 第1四半期

【訂正後】

表紙

2026年12月期 (第19期) 第1四半期

以上



RaQualia
innovators for life

決算説明会 2026年12月期（第19期） 第1四半期

2026年5月 東証 グロース：4579

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。
投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。
また、本資料内の免責事項を必ずご参照ください。



- ◆ 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ◆ それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品(研究開発プログラムおよび化合物)に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題等が含まれますが、これらに限定されるものではありません。



1 2026年12月期
第1四半期ハイライト

2 第1四半期業績

3 HK inno.N社との
資本業務提携

4 テムリックの
吸収合併

5 上市製品・
研究開発パイプラインの状況

6 今後のカタリスト

7 組織・人事等



RaQualia
innovators for life

1

2026年12月期 第1四半期ハイライト

innovators for life



連結経営成績

事業収益801百万円（前年同期比16.9%減）

- 営業損失 160百万円、経常損失 158百万円、四半期純損失 225百万円、EBITDA △48百万円

上市品の状況

テゴプラザンのグローバル展開は引き続き順調に進展

- HK inno.N Corporation（HK inno.N社）による韓国での販売は好調に推移
- 世界20カ国で販売中。その他世界37カ国で開発・承認申請・発売準備中
- 米国において米国食品医薬品局（FDA）に承認申請

ペット用医薬品のロイヤルティ収益も順調に推移

- GALLIPRANT®/ENTYCE™/ELURA™：いずれも安定的な売上を継続

パイプラインの状況

CB2作動薬についてAskAt社がOCT社との間で締結したライセンス契約を解約

- AskAt社はCB2作動薬の開発を継続すべく新たなパートナーを探索中

導出活動

導出準備プログラムについて導出活動中

資本業務提携

HK inno.N社との資本業務提携

- 共同研究を始めとした取り組みが進行中

テムリック

- ラクオリア創薬への吸収合併が完了（効力発生日：2026年1月1日）

ファイメクス

- アステラス製薬株式会社との共同研究のほか新規の提携先獲得にむけて活動中

子会社



RaQualia
innovators for life

2 第 1 四半期業績

innovators for life



2026年12月期 第1四半期 業績概要

単位：百万円

	2025年12月期 第1四半期	2026年12月期 第1四半期	前年同期比 増減率
事業収益	965	801	△16.9%
営業利益	93	△ 160	-
経常利益	29	△ 158	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△5	△ 225	-
EBITDA ¹⁾	209	△ 48	-

1) EBITDA: 利払・税引・減価償却前利益



事業収益の概要

通期計画 3,980百万円に対し **当第1四半期で 801百万円** を計上

通期計画進捗率

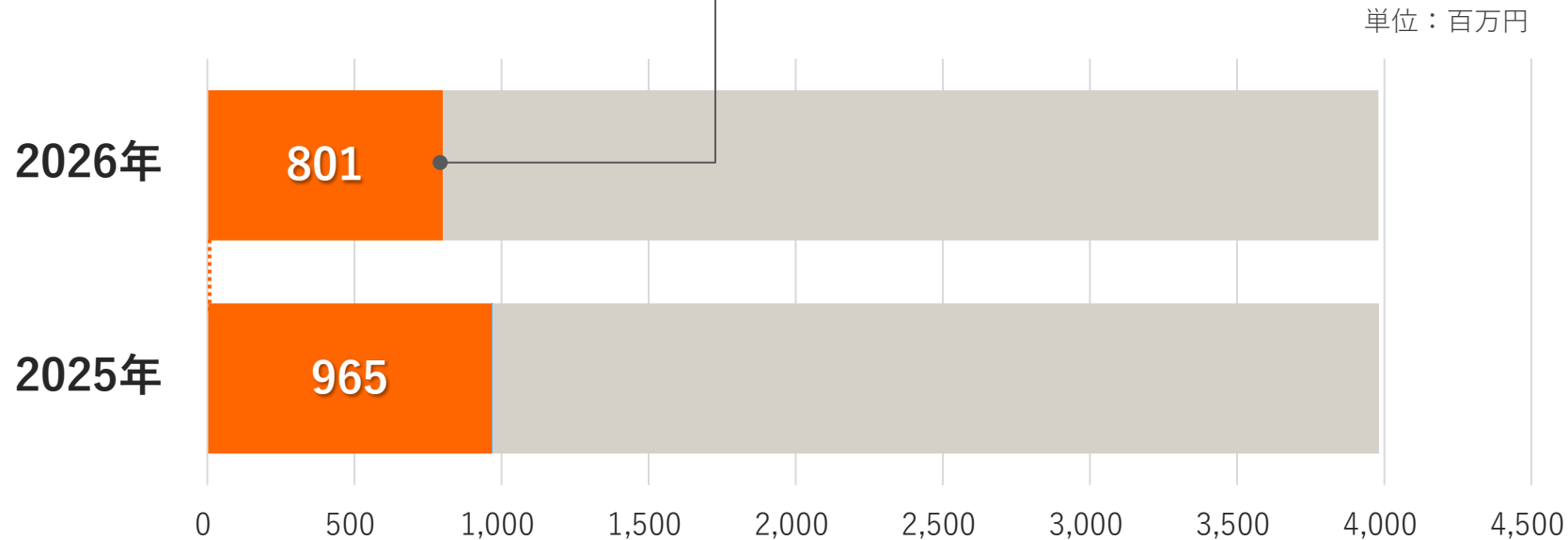
20.2%

内訳)

ロイヤルティ	676 百万円
その他	125 百万円
(契約一時金・マイルストーン・研究協力金を含む)	

前年比

+10.2%
△64.2%



通期

計画 3,980 百万円

実績 3,979 百万円

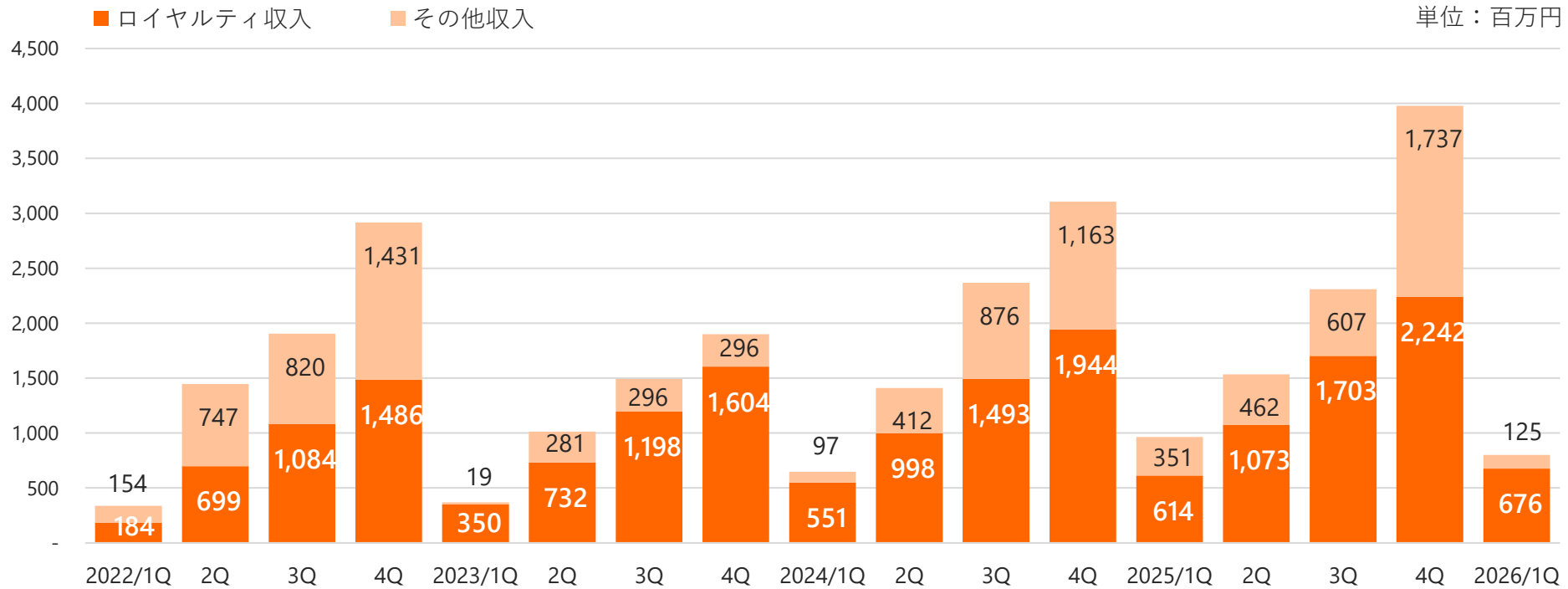


事業収益の四半期推移

当第1四半期業績の**前年比見劣りの主因はその他収入**

マイルストーン・契約一時金等の計上が無かったことが影響しているが、期初計画どおりの進捗であり、期末に向けてこれらの収益を着実に積み上げる方針

ロイヤルティ収入・その他収入の四半期推移（2022年12月期～2026年12月期）



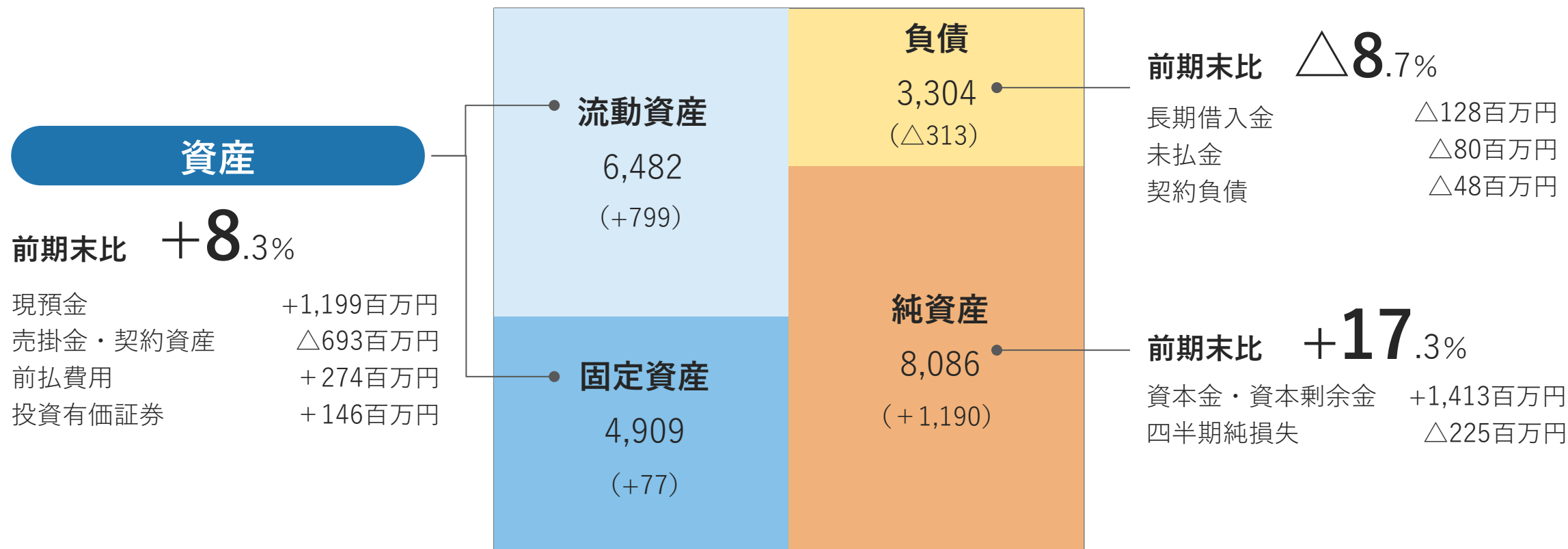


連結貸借対照表

負債の減少および純資産の増加に伴い **自己資本比率は 70.5%に改善**（前期末比 5.4ポイント増）

連結貸借対照表（対前期末比較）

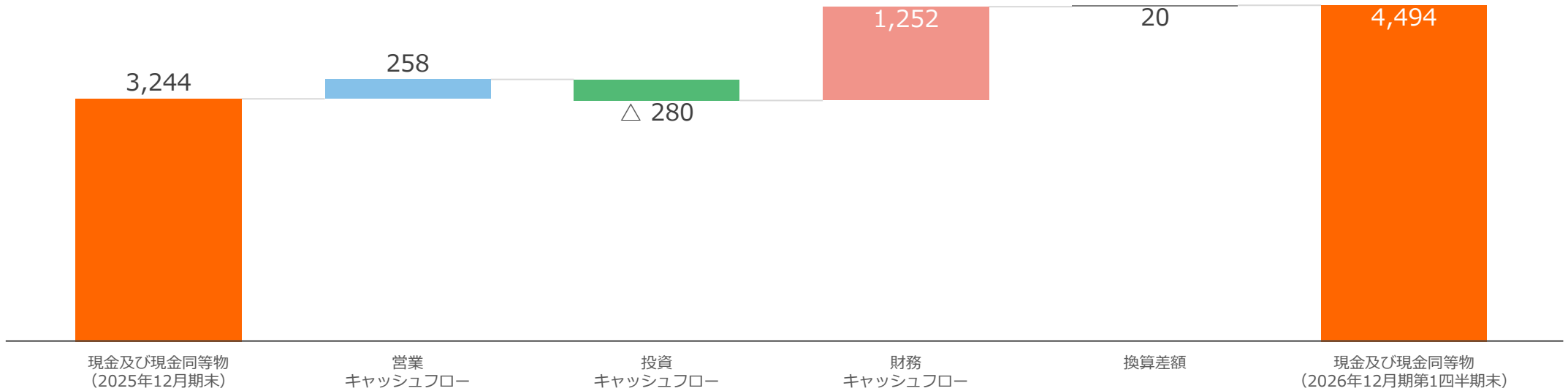
単位：百万円





キャッシュフロー

現金および現金同等物は**前期末比1,250百万円増加** (38.5%増)



営業キャッシュフロー

投資キャッシュフロー

財務キャッシュフロー

主な増加要因

売上債権の減少	693百万円
のれん償却額	69百万円
減価償却費	41百万円

投資有価証券の償還	100百万円
-----------	--------

株式発行による収入	1,400百万円
-----------	----------

主な減少要因

税金等調整前四半期純損失	158百万円
前払費用の増加	272百万円
法人税等の支払	93百万円

投資有価証券の取得	246百万円
子会社株式取得	120百万円

長期借入の返済	128百万円
リース債務の返済	19百万円



資金の状況と配分には**大きな変更無し**

資金の状況

2026年期中発表
(2026年2月13日)

今回発表
(2026年5月15日)

2025年～2027年の
事業収益見通し

128 億円

2026年～2028年の
事業収益見通し

128 億円

手元資金
(2025年期末)

38 億円

手元資金
(2026年第1四半期末)

52 億円

借入余力
(コミットメントライン)

5 億円

借入余力
(コミットメントライン)

5 億円

エクイティ調達
(新株予約権)

4.9 億円

エクイティ調達
(新株予約権)

4.9 億円

資金の配分

2026年期中発表
(2026年2月13日)

今回発表
(2026年5月15日)

探索研究投資¹⁾
(既存領域の拡充)

72 億円 (3カ年)

探索研究投資¹⁾
(既存領域の拡充)

72 億円 (3カ年)

前臨床・臨床開発投資¹⁾
(プロジェクトの価値向上)

3 億円 (3カ年)

前臨床・臨床開発投資¹⁾
(プロジェクトの価値向上)

3 億円 (3カ年)

設備投資
(既存設備の拡充・
DX投資等)

戦略投資
(創薬技術・パイプ
ラインの獲得等)

設備投資
(既存設備の拡充・
AI/DX投資等)

戦略投資
(創薬技術・パイプ
ラインの獲得等)

企業価値最大化に向けた投資

株主還元

株主配当金
財務基盤強化に
応じて実施予定

自己株式の取得
機動的に検討

1) 人件費を含みます。



RaQualia
innovators for life

3

HK inno.N社との資本業務提携

innovators for life



2026年1月29日に払込みが完了

当第1四半期においては**代謝・内分泌疾患領域の共同研究**を始めとした取り組みが進行中

資本業務提携の拡大の概要

資本業務提携の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資金調達による財務基盤の強化 2. 割当予定先との連携のさらなる強化
発行決議日	2025年12月12日（金）
払込期日	2026年1月29日（木）
発行新株式数	普通株式1,555,900株
発行価格	1株当たり907円（発行決議日前日までの直前1カ月間の終値の平均値）
調達資金の額	1,411,201,300円
募集又は割当の方法	第三者割当の方法
業務提携拡大の主な内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当社の割当予定先に対する、日本におけるtegoprazanの独占的な開発・製造・販売権の許諾 2. 当社が保有する開発化合物の価値向上に関する協力 3. 共同研究の実施 4. その他の研究開発に関する協力



今後の3年間（2026年12月期～2028年12月期）は、テゴプラザンの事業化を加速するとともに、**高い付加価値と大きな事業化ポテンシャルをもつ「第二、第三のテゴプラザン」**を萌芽させる期間



テゴプラザンの 事業化加速

テゴプラザンの日本国内での事業化をHK inno.N社に託し、**日本発のイノベーション**を日本の患者さんに



共同研究による 導出機会の増加

両社の強みに基づく共同研究を行い、**HK inno.N社の開発力・グローバルネットワーク**を活かして1日でも早く世界の患者さんに



財務基盤の強化

合計24億円^{1,2)}の調達資金を原資に創薬基盤の強化、パイプラインの拡充、設備投資の強化および財務健全性の維持を実現

1) 「第三者割当による新株式の発行に係る払込完了に関するお知らせ」 (2025年4月18日当社お知らせ)

2) 「第三者割当による新株式の発行に係る払込完了に関するお知らせ」 (2026年1月29日当社お知らせ)



RaQualia
innovators for life

4 テムリックの吸収合併

innovators for life



テムリック株式会社の吸収合併（簡易合併・略式合併）

子会社テムリックの吸収合併は**2026年1月1日付で予定どおり完了**

吸収合併の概要

合併当事者	吸収合併存続会社：ラクオリア創薬株式会社（「当社」） 吸収合併消滅会社：テムリック株式会社（「テムリック」）
契約締結日	2025年10月17日（金）
効力発生日	2026年1月1日（木）
合併の方式	当社を存続会社とする吸収合併としテムリックは解散
株式等の割当・ 対価の交付	株式の割当その他一切の対価の交付無し
資本金及び準備金	資本金の額および準備金の額の増減無し
合併後の状況	当社の名称、所在地、代表者の役職・氏名、事業内容、資本金、 および決算期の変更無し
業績への影響	連結グループ内の吸収合併のため、当社連結業績への影響は軽微



RaQualia
innovators for life

5 上市製品・ 研究開発パイプラインの状況

innovators for life



種別	一般名・作用機序	適応症	主な製品名・販売元
 ヒト用	テゴプラザン カリウムイオン競合型 アシッドブロッカー (P-CAB)	<ul style="list-style-type: none"> 胃食道逆流症 胃潰瘍 十二指腸潰瘍 ほか	K-CAB® (韓国) HK inno.N Corporation (「HK inno.N社」) <small>タイシンザン</small> 泰欣贊® (中国) Shandong Luoxin Pharmaceutical Group Stock Co., Ltd. ほか
  ペット用	グラピプラント EP4拮抗薬	<ul style="list-style-type: none"> 犬の慢性骨関節炎 	GALLIPRANT® (日米欧ほか) Elanco Animal Health Inc. (「Elanco社」)
	カプロモレリン グレリン受容体 作動薬	<ul style="list-style-type: none"> 犬の食欲不振 	ENTYCE™ (米国) Elanco社
		<ul style="list-style-type: none"> 猫の体重減少管理¹⁾ 	ELURA™ (米国) Eluracat™ (欧州)、エルーラ™ (日本) Elanco社

1) 適応症は国・地域によって異なり、米国では「慢性腎疾患またはその他の慢性疾患を伴う猫の体重減少管理」となっています。



カリウムイオン競合型アシッドブロッカー (P-CAB)

(2026年3月31日現在)

胃酸分泌抑制剤テゴプラザン



胃酸に関わる疾患は数多い

胃食道逆流症 (GERD)、胃潰瘍、ヘリコバクター・ピロリ感染症など



既存薬 (プロトンポンプ阻害剤 (PPI)) の課題を克服

- ✓ 服用30分以内の速やかな効果
- ✓ 最長6カ月の長期服用でも有効性・安全性が持続
- ✓ 強力な胃酸分泌抑制能
- ✓ 低い薬物相互作用



世界の消化性潰瘍剤の市場は2兆円¹⁾

中国 4,500億円¹⁾、米国 4,000億円¹⁾、日本 2,500億円

一般名 tegoprazan (テゴプラザン)

適応症 胃食道逆流症、消化性潰瘍、ピロリ菌除菌療法ほか

販売元 HK inno.N Corporation (韓国/HK inno.N社)
Shandong Luoxin Pharmaceutical Group Stock Co., Ltd. (中国/Luoxin社) ほか

製品名 K-CAB[®] (韓国ほか)、泰欣赞[®] (中国)、Ki-CAB[®] (メキシコほか)、PCAB[®] (インド)



全世界の権利をHK inno.N社に許諾

当社は開発の進捗に応じたマイルストーン/製品売上に応じたロイヤルティを受け取る



韓国・中国など20カ国²⁾で販売中

このほか37カ国に進出

1) 出所: HK inno.N社IR資料 (2025年11月), 換算レート: 1韓国ウォン=0.11円

2) 韓国、中国、モンゴル、フィリピン、インドネシア、シンガポール、メキシコ、ペルー、チリ、コロンビア、ドミニカ共和国、ニカラグア、ホンジュラス、グアテマラ、エルサルバドル、パナマ、マレーシア、インド、タイ、およびロシア



韓国におけるK-CAB® の売上は引き続き好調に推移

K-CAB® 2026年第1四半期の国内売上高（処方ベース） 585億ウォン（約64億円） ※1

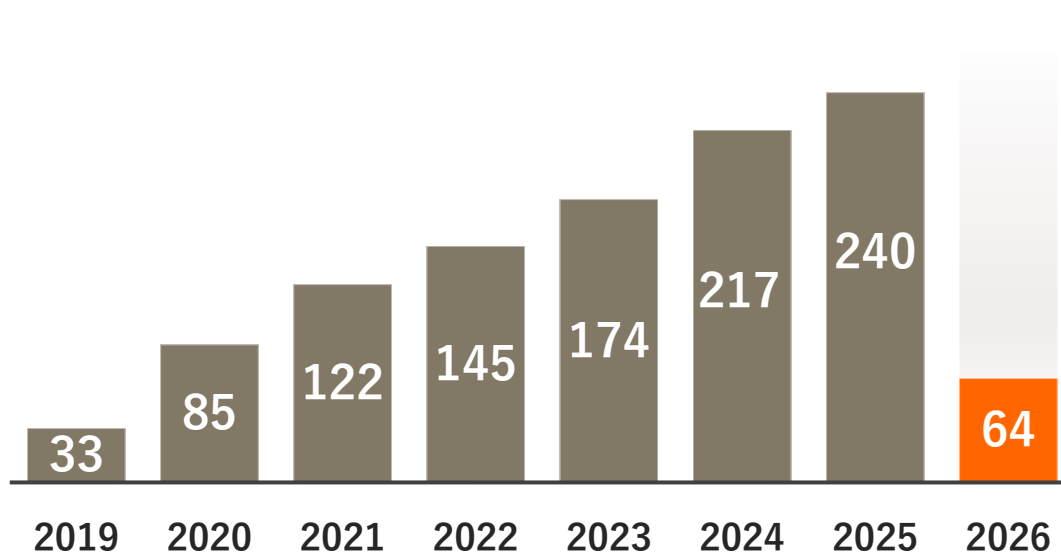
前年同期比+13.9%と昨年に引き続き右肩上がりの好調な売上を維持

ご参考：2026年4月の外来処方売上（全領域）においてグローバルファーマの製品を抑えて首位（※2026年5月15日発表）

韓国市場における「K-CAB®」のパフォーマンス

売上高（処方ベース）の年次推移

（単位：億円）



前年同期比

+13.9%

市場シェア※2

第1位

（シェア15%）

※2025年における韓国の消化性潰瘍剤の市場規模

約**1,620**億円（2019年の1.8倍）
（P-CABのシェアは第4四半期時点で26.4%）

※1：院外処方実績（暫定値）
※2：韓国における胃酸分泌抑制剤市場におけるシェア



RaQualia
innovators for life

テゴプラザン・グローバル展開の状況

2026年12月期
第1四半期

(2026年5月15日現在)

世界57カ国（日本を含む）での事業活動が進行中。販売国も**20カ国まで増加**



承認・販売国が増加

ロシアで販売開始
ウズベキスタンで承認

北米での開発が進展

米国における承認申請済
P3試験結果が国際学会
DDW2026で発表
※2026年5月

中国での販売・開発が進展

売上高を伸ばしP-CAB製品トップへ
(※2025年に出荷数は前年比60%増)
注射剤の臨床試験進行中
(※P2試験の患者組入も順調に進展)

その他の主要な国・地域における販売・開発状況

P3試験実施中・申請準備中

カナダ、ブラジル、南アフリカ・東欧等5カ国、
中東・北アフリカ地域

承認審査中

ベトナム、中南米5カ国、米国

承認済・発売準備中

パラグアイ、エクアドル、ウズベキスタン

**グローバル展開は着実に進展
開発・販売の基盤拡充が進行中**



胃食道逆流症（GERD）の分類

胃酸や胃内容物の逆流により引き起こされる食道粘膜障害と煩わしい症状のいずれかまたは両方を引き起こす疾患（患者数：米国 6,500万人、日本 1,700万人）

疾患の名称	主な症状	食道粘膜障害	治療の目標
びらん性胃食道逆流症 ¹⁾ (EE)	胸やけ 胃酸逆流 その他症状 (咳、胸痛、 咽頭痛等)	あり	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="background-color: #2e8b57; color: white; border-radius: 15px; padding: 5px 15px; text-align: center;">治療フェーズ</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="background-color: #2e8b57; color: white; border-radius: 15px; padding: 5px 15px; text-align: center;">維持フェーズ</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> 粘膜障害の治癒 胸やけの改善 胃酸逆流の改善 その他症状の改善 合併症²⁾の予防
非びらん性胃食道逆流症 (NERD)		なし	<ul style="list-style-type: none"> 胸やけの改善 胃酸逆流の改善 その他症状の改善

1) 「逆流性食道炎」とも言い、国内ではこちらの方がより多く用いられる傾向がありますが、従来の当社の開示と平仄を合わせてこの用語を用いています。

2) EEの主な合併症としては、貧血、出血、食道狭窄、Barrett食道や食道腺がんの発生などが知られています。



第III相臨床試験（TRIUMpH試験）

- Sebelo Pharmaceuticals社（Sebelo社）の一部門であるBraintree Laboratories（Braintree社）が実施
- びらん性胃食道逆流症（EE）および非びらん性胃食道逆流症（NERD）を対象としたピボタル試験
- 対照薬：ランソプラゾール（プロトンポンプ阻害薬（PPI））・プラセボ

びらん性胃食道逆流症（EE）（n=1,250）

【評価項目】

- 主要：完全治癒率（8週、非劣性）、治癒維持率（24週、非劣性）
- 副次：胸やけのない日数、重症例の治癒率ほか計6項目

【トップライン結果】

びらん・胸やけの完全治癒

PPIに優越

寛解状態の維持

PPIと同等または優越

非びらん性胃食道逆流症（NERD）（n=800）

【評価項目】

- 主要：24時間胸やけのない日の割合（4週）
- 副次：胸やけ・胃酸逆流の完全消失率（4週）

【トップライン結果】

胸やけ・胃酸逆流の完全消失

プラセボに比べて改善

EEとNERDの両方において、**全ての主要評価項目および副次的評価項目を達成**
安全性および忍容性はプラセボ・ランソプラゾールと同程度（血清ガストリン値も正常範囲内）

出所：2025年4月24日発表「胃酸分泌抑制剤tegoprazanの米国における第III相臨床試験（TRIUMpH試験）の良好なトップライン結果を発表」
 2025年8月8日発表「胃酸分泌抑制剤tegoprazan、米国における第III相臨床試験（TRIUMpH試験）で良好な結果を取得し試験を完了」



治療フェーズ：テゴプラザンは既存薬ランソプラゾールに対し治療率・症状改善の両面で優越

有効性

- テゴプラザンは全グレードの完全治療率で2週・8週ともランソプラゾールに対し有意な優越性
- 重症例では治療率の差はさらに顕著であり、テゴプラザンの早期治療効果が際立つ結果
- 胸やけ症状の改善については全体で非劣性、重症例サブグループ（LAグレードC-D）ではテゴプラザンが有意に優越

評価項目	ランソプラゾール			テゴプラザン	判定	
	30 mg			100 mg		
2 週時点の完全治療率（全体）	67.0%	←	9.4%	→	76.4%	優越性 (p<0.0001)
8 週時点の完全治療率（全体）	78.0%	←	6.6%	→	84.6%	優越性 (p=0.0083)
2 週時点の完全治療率（重症例）	54.5%	←	19.6%	→	74.1%	優越性 (p<0.0001)
8 週時点の完全治療率（重症例）	68.0%	←	15.2%	→	83.2%	優越性 (p=0.0002)
8 週までの24時間胸やけのない日の割合（全体）	51.9%	←	2.4%	→	54.3%	非劣性 (p<0.0001)
8 週までの24時間胸やけのない日の割合（重症例）	53.6%	←	6.5%	→	60.1%	優越性 (p=0.0289)

安全性

- 有害事象および特別関心事象の発現率はランソプラゾールと同程度で、血清ガストリン平均値は期間を通じて正常範囲内



維持フェーズ：テゴプラザンは24週にわたり高い治癒維持率を示し、ランソプラゾールに対し優越

有効性

- テゴプラザンは100 mg・50 mgいずれの用量でも、24週時点の完全治癒維持率でランソプラゾールに対し有意な優越性
- 重症例では100 mg群の治癒維持率が+32.1ptと際立ち、50 mg群も数値上の上乗せを確認
- 胸やけ症状の改善については全体で非劣性、重症例サブグループ（LAグレードC-D）ではテゴプラザン100 mg群が有意に優越

評価項目（いずれも24週時点）	ランソプラゾール 15 mg	テゴプラザン 100 mg/50 mg	判定
完全治癒維持率（全体）※テゴプラザン 100 mg	50.6%	← 18.8% → 69.4%	優越性（p<0.0001）
完全治癒維持率（全体）※テゴプラザン 50 mg	50.6%	← 10.8% → 61.4%	優越性（p=0.0145）
完全治癒維持率（重症例）※テゴプラザン 100 mg	44.3%	← 32.1% → 76.4%	優越性（p<0.0001）
完全治癒維持率（重症例）※テゴプラザン 50 mg	44.3%	← 13.6% → 57.4%	優越傾向（p=0.061）
24時間胸やけのない日の割合（全体）※テゴプラザン 100 mg	69.4%	← 3.5% → 72.9%	非劣性（p<0.0001）
24時間胸やけのない日の割合（全体）※テゴプラザン 50 mg	69.4%	← 0.5% → 69.9%	非劣性（p<0.0001）
24時間胸やけのない日の割合（重症例）※テゴプラザン 100 mg	70.4%	← 13.8% → 84.2%	優越性（p<0.0018）

安全性

- 有害事象および特別関心事象の発現率はランソプラゾールと同程度で、血清ガストリン平均値は期間を通じて正常範囲内



本EE試験結果の意義および今後の見通し

出所：2026年5月7日発表「国際学会DDW 2026における胃酸分泌抑制剤tegoprazanの第III相臨床試験データ発表に関するお知らせ」

テゴプラザンは大規模臨床試験の結果により **PPIに対する優位性を確立した世界初のP-CAB**

市場環境

- 世界の消化性潰瘍剤の市場規模は2兆円以上（中国 4,500億円、米国 4,000億円、日本 2,500億円）
- EEの重症患者は合併症リスクが高く長期の維持療法を要する
- 胃食道逆流症の第一選択薬はPPI
- 米国ではPPIで症状が完全に緩和されない患者さんが約4割（35 – 54%）

(Chey WD, et. al. Dig Dis Sci. 2010; Armstrong D, et. al. Foregut. 2023)

TRIUMpHプログラム全体を通じて、テゴプラザンは従来のPPI治療下で症状が残りやすい重症例を含むGERD患者さんに対し、より速く、より完全な治癒、治癒の持続的な維持、そして胸やけおよび逆流症状の実質的な軽減をもたらす可能性を示しています。

これらの良好な結果は、テゴプラザンが有する自己調整的な作用機序に直接関係しており、他の上市薬との差別化につながっています。



Alan Cooke

Sebela Pharmaceuticals 社長兼CEO

2026年1月、Sebela社は米国食品医薬品局（FDA）に対して承認申請済み
2027年1月の承認取得を見込む



RaQualia
innovators for life

ペット用医薬品 上市3製品

2026年12月期
第1四半期

既販売国において**安定的な売上を継続**



EP4拮抗薬

GALLIPRANT®

- 日米欧ほかで販売中
- 2021年にブロックバスター製品¹⁾に成長²⁾

一般名	grapiprant (グラピプラント)
適応症	犬の慢性骨関節炎
販売元	Elanco Animal Health, Inc. (米国/Elanco社)



グレリン受容体作動薬

ENTYCE™

ELURA™

米国で販売中

米国・欧州・日本ほかで販売中

一般名	capromorelin (カプロモレリン)
適応症	犬の食欲不振 (ENTYCE™) 慢性腎疾患またはその他の慢性疾患を伴う猫の体重減少管理 ³⁾ (ELURA™) ほか
販売元	Elanco社

1) ここでは年間売上高が100億円を超える規模の製品のことをブロックバスターと称しています; 2) Elanco社 2021年度決算発表 (2022年2月24日); 3) 適応症は国・地域によって異なります。



(2026年 5月15日現在)

NEW トピックス

● CB2作動薬 (2026年 2月20日発表)

- 株式会社AskAt（「AskAt社」）は、当社がAskAt社に導出したCB2作動薬（RQ-00202730/AAT-730/OCT461201）について、Oxford Cannabinoid Technologies Ltd.（「OCT社」）との間で締結したライセンス契約を解約したことを発表
- 今回の解約は、開発上の理由ではなく、OCT社による契約違反によるもの
- AskAt社は、CB2作動薬の開発を継続すべく、新たなパートナーを探索

導出済み

導出準備



注1) 前臨床段階以降にあるプログラムについて標的疾患ごとにわけて表示しています。

注2) 国・地域によって開発段階に差がある場合は、最も進んだ段階を表示しています。

注3) 前回から動物薬については、POC試験を前臨床試験、パイロット試験をフェーズ2試験、ピボタル試験をフェーズ3試験として表示することとしました。詳細につきましては当社ウェブサイト（<https://www.raqualia.com/ja/index.html>）の「パイプライン」にてご確認ください。



国際学会AACR2026において、**子会社ファイメクスが自社プラットフォームRaPPIDS™に関するポスター発表**を実施（2026/4/17-22@米国サンディエゴ）

Expanding the landscape of targeted protein degradation: E3-agnostic discovery and proprietary ligand identification

#5168

Kanae Gamo, Shinya Yokosaka, Michiko Watanabe, Tomoaki Hayashi, Shigeyuki Mori, Naomi Asahara, Noriyasu Sano, Rumiko Osawa, Shigeru Furukubo, Kazuteru Aoki
FIMECS, Inc., Fujisawa, Japan



AACRとは：

世界最大のがん研究専門学会である、アメリカ癌学会（**A**merican **A**ssociation for **C**ancer **R**esearch）の年次総会。がん領域における世界最大級の研究学会であり、創薬技術・パイプライン・研究トレンドの初期シグナルが最も早く集まる場の一つと位置付けられていることから、数年後の臨床・商用化トレンドを先取りするイベントとして、パートナーリング・技術評価・初期交渉の場としても認識されています。

AACR2026参加によって得られた示唆

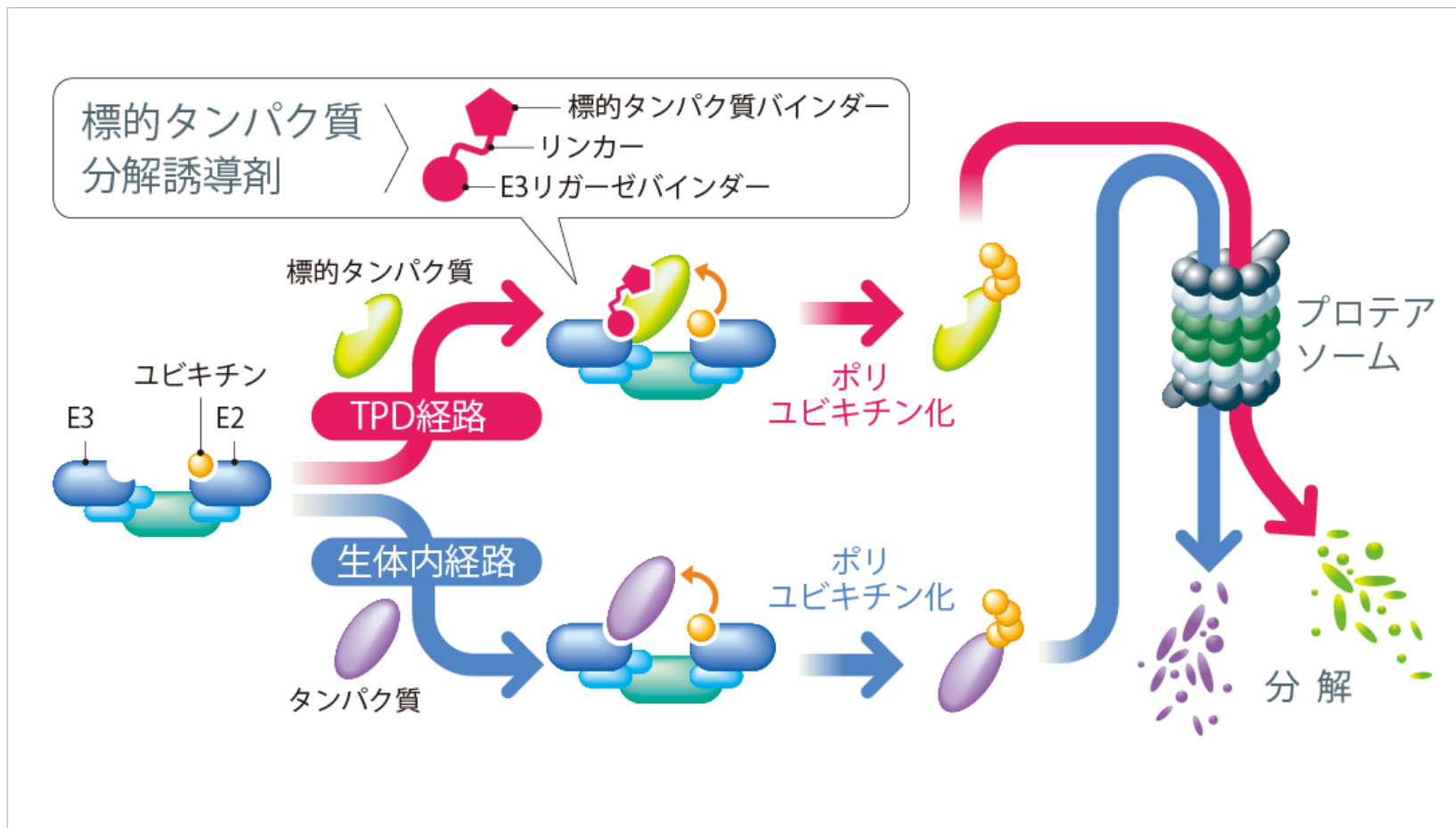
- 標的タンパク質分解誘導剤（TPD）領域ではメガファーマの取り組みの進展に伴って「特定のE3リガーゼへの依存による制約」が顕在化（例：適用範囲・活性・安全性）
- RaPPIDS™は特定E3に依存しない設計思想（“E3-agnostic discovery”）を特徴とする
- 「今だからこそ意味のあるTPDプラットフォーム」としてこれらの課題の解決策として認識され始めている



標的タンパク質分解誘導剤 (TPD)



生体内に備わる不要タンパク質除去機構を利用した**新たなモダリティ**



幅広い
標的タンパク



触媒的に作用



低用量での
薬効の持続性



2026年5月
世界初のTPDが
米国で承認※1

※1：2026年5月1日 Arvinas社とPfizer社が共同で開発していたverpdegestrantについて、ER陽性（ER+）、HER2陰性かつESR1変異陽性で内分泌療法後に進行した進行・転移乳癌を対象とした製造販売承認を取得 (<https://ir.arvinas.com/news-releases/news-release-details/arvinas-announces-fda-approval-veppanu-vepdegestrant-treatment>)



RaPPIDS™はE3リガーゼの選択肢を広げることで、**TPD創薬の適用範囲と開発効率を向上**させる

Rapid Protein Proteolysis Inducer Discovery System

高い生産性

- 週あたり1,500以上の分解誘導剤を高スループットで合成・評価
- 迅速な創薬探索とリード最適化を実現

新規E3の同定に向けたフェノタイプ重視アプローチ

- 「フェノタイプファースト」
- 適切なE3リガーゼ特定のための革新的手法
- 治療応用の幅を拡大する分解剤の創出を支援

独自の新規E3リガーゼ

- TPDへの幅広い応用が可能
- 組織特異的な発現プロファイル
- 有効性を維持しつつ毒性を抑制する設計
- 経口分解剤創出の高いポテンシャル

経口投与可能な分解剤設計の専門性

- 経口投与可能な分解剤の設計に関する知見
- TPDのバイオアベイラビリティ課題を解決するソリューション



E3リガーゼ活用領域の拡張



RaQualia
innovators for life

6 今後のカタリスト

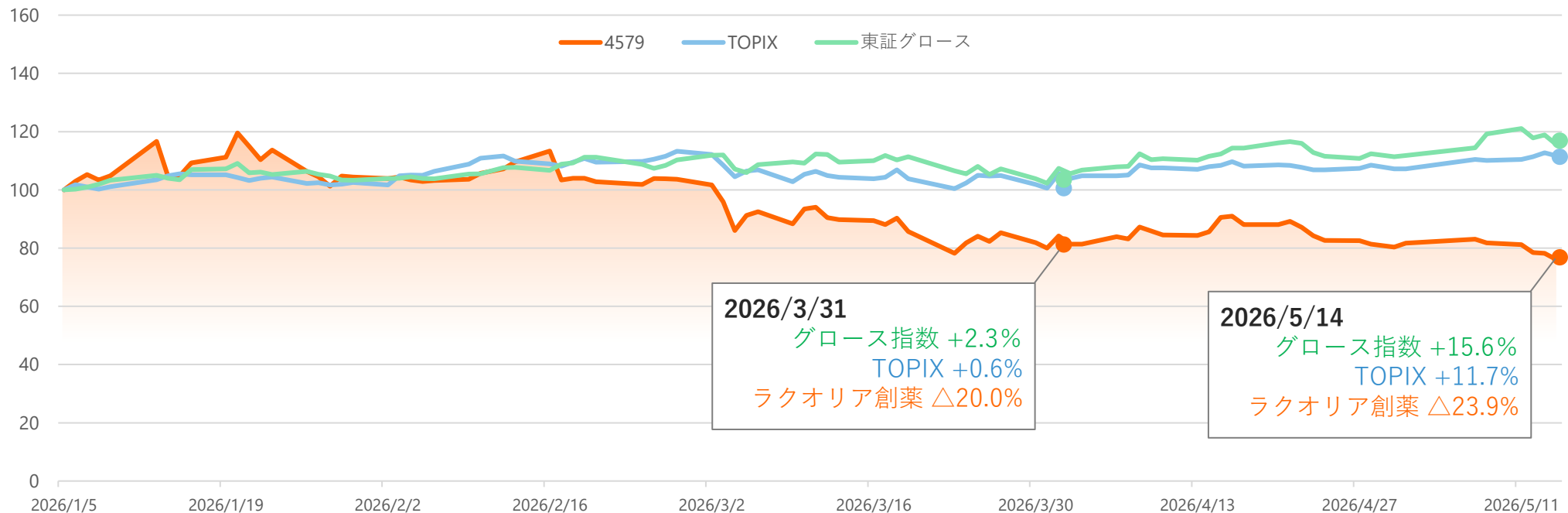
innovators for life



2026年の株価は年初比で下落し、**市場指数に対して相対的に弱含みで推移**
 当第1四半期はマイルストーン収入・契約一時金等の**イベントの欠如が影響している**と認識
 今後は**事業収益の進捗や開発・提携の進展等に伴う各種イベント**が株価評価の重要な要素になると想定

ラクオリア創薬 相対株価

(2026/1/5の値を100として指数化 (対象期間：2026/1/5－2026/5/14))





RaQualia
innovators for life

想定されるカタリスト

2026年12月期
第1四半期

プログラム	想定適応症	国地域	研究開発段階	短期 (2026年)	中期 (2027-2028年)	導出先/提携先
			承認申請中	承認審査	承認取得 製品発売	HK inno.N社 Sebela社/Braintree社
テゴプラザン	胃食道逆流症等		フェーズ1	後期臨床試験の実施		HK inno.N社
			前臨床	導出契約締結	後期臨床試験の実施	HK inno.N社 提携先企業
TRPM8遮断薬	慢性疼痛		フェーズ1	臨床試験の進展 (フェーズ1→フェーズ2)		Xgene社
グレリン受容体作動薬	便秘・悪液質	全世界	前臨床	導出	臨床試験の実施	提携先企業
IRAK-M分解誘導薬	がん (がん免疫)	全世界	前臨床	臨床開発準備 導出	臨床試験の実施	提携先企業
既存共同研究プログラム	がん	全世界	研究	共同研究の進展 (マイルストーン)		アステラス製薬社
新規共同研究プログラム	未定	全世界	研究	新規契約獲得	新規契約獲得	提携先企業
P2X7受容体拮抗薬	未定	全世界	(非開示)	開発計画の再検討 & 開発再開		旭化成セラピュー ティクス社 Lilly社

想定される進捗イベントの内容や時期は、現在における見込み、予測およびリスクを伴う当社独自の想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。



RaQualia
innovators for life

7 組織・人事等

innovators for life



1. 役員体制（2026年3月25日付）

役職	氏名
代表取締役	須藤 正樹
取締役	宇都 克裕
取締役（社外）※新任	宋 根石
取締役（社外）※新任	棚瀬 敦
取締役（社外）※新任	谷 匡治
取締役（社外）監査等委員	石井 幸佑
取締役（社外）監査等委員	柿沼 佑一
取締役（社外）監査等委員	中野 貴之

2. 執行役員（従来から変更なし）

役職	氏名
執行役員 研究開発部門担当	川村 清
執行役員 事業開発・知的財産部門担当	齋藤 俊之
執行役員 経営管理部門担当	志水 幹憲



写真左から 谷 取締役、棚瀬 取締役、宋 取締役、宇都 取締役、須藤 代表取締役、石井 取締役（監査等委員）、柿沼 取締役（監査等委員）、中野 取締役（監査等委員）



1. ファイメクス株式会社 新任取締役（2026年3月18日付）

氏名（フリガナ）	新役職	旧役職
青木 一晃（アキカズテル）	取締役CSO	CSO
須藤 正樹（スドウマサキ）	取締役	—

2. ファイメクス株式会社 退任取締役（2026年3月18日付）

氏名（フリガナ）	新役職	旧役職
宇都 克裕（ウツカヒロ）	—	取締役
志水 幹憲（シズモトノリ）	—	取締役CAO

※ファイメクス株式会社の取締役は、蒲香苗（代表取締役）、青木一晃、須藤正樹の3名であります。

イノベーションの力で、いのちに陽をもたらす



RaQualia
innovators for life

ラクオリア創薬株式会社



当社のプレスリリースや決算発表等の情報をタイムリーにお知らせいたします

✉ IRニュースメール登録